モニタリングサイト1000　環境省 自然環境局 生物多様性センター Biodiversity Center of Japan　Wetlands INTERNATIONAL

モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湿原）植生調査

上川浮島湿原サイト

－北海道上川郡上川町－

浮島湿原は、北海道北部の紋別郡滝上町と上川郡上川町との境界部、通称「滝の上高地」に位置する標高約 870 m の溶岩台地上に発達した山地高層湿原です。北東から南西方向に約 650 m、北西から南東方向に約 450 m の「へ」の字形に広がっています。面積は約 14.8 ha、周囲は約 3 km あり、大小 70 余りの沼が点在しています。そのうちいくつかの池塘には浮島が見られます。

浮島湿原の典型的な景観
高層湿原草本群落が広がり、池塘、アカエゾマツが点在する
（2015年7月26日 撮影）

チャミズゴケのブルト（湿原内で見られる凸地のこと）
（2015年7月27日 撮影）

ライン 2 での調査風景
（2015年7月27日 撮影）

2015 年度の調査結果概要

植生調査は 7 月 26 日から 28 日にかけて実施しました。今年度からモニタリングを開始するため、調査ラインの設定と植生調査、物理環境測定用の機器類の設置を行いました。湿原中央部のやや西側の緩傾斜地にライン 1（14 方形区）を、東側の緩傾斜地にライン 2（8 方形区）を設けました。また、ヌマガヤを主とした群落と湿原入り口の踏み付け荒廃地跡にも 3 個ずつランダムに方形区を設置し、モニタリングを開始しました。

高層湿原植生域ではホロムイスゲやミカヅキグサが全域でみられ、シュレンケにはホロムイソウーミカヅキグサ群集が出現しました。ライン 1 は、イボミズゴケ群落が主体で、チャミズゴケのブルテや浅い水面のあるシュレンケがモザイク状に広がり、南東側にはワタミズゴケが出現するチングルマーハナゴケ類群集が見られました。ライン2は、所々にチャミズゴケブルテやシュレンケが出現するイボミズゴケが優占する山岳地域のローン植生となっていました。

次の調査は 2018 年に実施する予定です。

【調査者・調査協力者】
冨士田裕子・小林春毅（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園）、佐藤雅俊（帯広畜産大学）、井上　京・犬飼隼人・横地　穣（北海道大学農学部）、横井謙一（日本国際湿地保全連合）

トキソウ
（2015年7月27日 撮影）

ウメバチソウ
（2015年7月27日 撮影）

マット状に広がるイボミズゴケとムラサキミズゴケ
（2015年7月27日 撮影）

エゾベニヒツジグサ
（2015年7月26日 撮影）

モニタリングサイト1000　環境省 自然環境局 生物多様性センター Biodiversity Center of Japan　Wetlands INTERNATIONAL

モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湿原）植生調査

戦場ヶ原湿原サイト

－栃木県日光市－

戦場ヶ原は、日光火山群の山々に囲まれた栃木県北西部の標高約 1400 m に位置しています。ここでは、高層湿原から低層湿原までさまざまなタイプの湿原植生をみることができますが、人工排水路の影響による乾燥化や土砂の流入、シカの食害等、保全上の課題も多い場所です。

ラインBの始点付近の景観
（2015年8月6日 撮影）

ミズゴケの上で可憐な花を咲かせるヒメシャクナゲ
（2015年6月27日 撮影）

ラインAの方形区
ホロムイスゲの谷地坊主と、水が溜まった小凹地からなる植生
白い穂が見えるのはミカヅキグサ（2015年8月5日 撮影）

2015 年度の調査結果概要

植生調査は 8 月 5 日から 8 日にかけて実施しました。新たに加えられたモニタリングサイトであるため、今回が初めての調査になります。本サイトでは、1970 年代に植生調査が行われた約 500 m のライン 2 箇所を復元し、ライン A に 16 個、ライン B に 19 個の方形区（計 35 方形区）を設置しました。

調査した場所は高層～中間湿原の植物群落で、相観や種組成が異なるいくつかの植物群落が記録されました。オオアゼスゲ、ホロムイスゲ、ヤチスゲ、ワタスゲ等のカヤツリグサ科草本が谷地坊主を形成し、その下層に矮性低木のツルコケモモ、ヒメシャクナゲが生育するのが基本的な構成でした。場所によっては、下層にミズゴケ属がパッチ状に生育し、その中にモウセンゴケやウメバチソウが生育していました。谷地坊主の間の小凹地の水たまりには、水生の食虫植物であるタヌキモ類の生育もみられました。湿原周辺部に近いやや乾燥した場所ではヌマガヤが多くなり、場所によってはヨシが侵入しているところもありました。1970 年代の調査結果との比較から湿原植生の変化の方向を把握し、適切な管理に役立てていくことが必要です。

【調査者・調査協力者】
吉川正人・橘川晃樹・藤澤高広・中田真菜・吉野愛美（東京農工大学農学部）、野原精一（国立環境研究所　生物・生態系環境研究センター）、横井謙一・加藤　将（日本国際湿地保全連合）

白い花をつけるミズチドリは、湿原に咲く代表的なラン
（2015年7月24日 撮影）

本州では奥日光と霧ヶ峰だけに分布するホザキシモツケ
（2015年7月15日 撮影）

オオアゼスゲの株が発達してできた谷地坊主
（2015年7月24日 撮影）

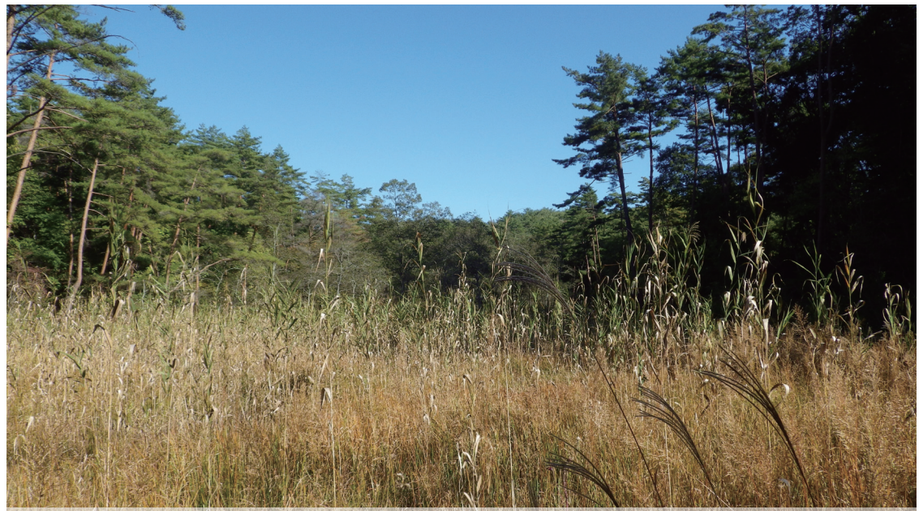
モニタリングサイト1000　環境省 自然環境局 生物多様性センター Biodiversity Center of Japan　Wetlands INTERNATIONAL

モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湿原）植生調査

鯉ヶ窪湿原サイト

－岡山県新見市－

鯉ヶ窪湿原は吉備高原の北西部に位置しています。海抜約 550 m にあり、0.9 ha の湿原が広がっています。鯉ヶ窪湿原は中間湿原として多様性が高く、約 350 種に及ぶ植物が自生しています。地域内の湿原には、希少かつ植物地理学上貴重な植物をはじめ、多数の湿生植物が自生し、「西の尾瀬沼」とも形容されます。鯉ヶ窪湿原は国指定天然記念物に指定されています。



湿原内に繁茂する草丈2 m以上のヨシ
（2015年10月16日 撮影）

ホザキノミミカキグサ
（2015年10月18日 撮影）

ライン1付近に設置された地下水位や気温を測定する観測機器
（2015年10月16日 撮影）

2015 年度の調査結果概要

植生調査は 10 月 16 日から 18 日にかけて実施しました。本サイトでは、過去に設定された 2 本のライン（別調査）に加え、新たに 1 本のラインを設定しました。

ライン 1 はケハンノキ林を横断する位置に設定したもので、5 月にはリュウキンカが開花し、当湿原を特徴付ける群落のひとつです。ケハンノキの亜高木林となっており、ヨシが 2 m を超えて数 % 程度の被度で生育し、カサスゲが優先状態で繁茂しています。今回の調査では、リュウキンカやビッチュウフウロの生育はわずかで、カサスゲの繁茂が印象に残りました。ライン 2 はオグラセンノウの生育地域の保全を目的に設定されたラインです。今回の調査では、草本層にヨシが散生し、ヌマガヤが 5 ～ 20% 程度、下層にビッチュウフウロ、キセルアザミ等の生育が確認されました。今回の調査ではオグラセンノウを確認することはできず、すでに腐朽してしまったと推察されました。ライン 3 は草丈の低い貧栄養型の植生です。始点から 10 m 程の区間は主に草丈が高いヌマガヤ群落、11 m 以降はコイヌノハナヒゲ、ヤチカワズスゲ、ホザキノミミカキグサ等が生育する草丈の低い典型的湿原植生が続きます。ムラサキミミカキグサ、オオミズゴケ、コアナミズゴケが生育し、良好な植生が保たれていました。

【調査者・調査協力者】
波田善夫・林　広祥・森山舞奈（岡山理科大学生物地球学部）、太田　謙（岡山理科大学自然植物園）、西本　孝（岡山県自然保護センター）

植生を記録する調査員
（2015年10月16日 撮影）

オオミズゴケ
（2015年10月16日 撮影）

秋の鯉ヶ窪湿原を代表するミコシギク
（2015年10月16日 撮影）